

**PHOTO**

KOKUYO / PHOTO ALBUM

# 白石城址写真帖

白石市文化財保護委員会 調査報告

昭和四十年

調査・撮影・構成  
現象・焼付

片倉信光  
光影堂



道  
合  
新  
潟

(東方)

## 川田氏・白石氏時代 旧白石城址 (白石市元山田)

(寛治年間一文治五年迄 川田氏城主  
文治年間一天正十四年迄 白石氏城主  
天正十四年一弘十九年迄 屋代氏城主)



益岡城 ✓ 川田・白石氏時代 旧白石城



喜山寺山

(西より)



森合道 →  
米沢旧街道



(↑森は螢小吉)



(東より白石中学校)  
大屋根は常おき

森と竹籠の城址(元珠院址)

道は旧米沢街道(館城と並行)

-吉見字園-

丘頂部分  
馬場とは別の場所  
右手に最高所がある

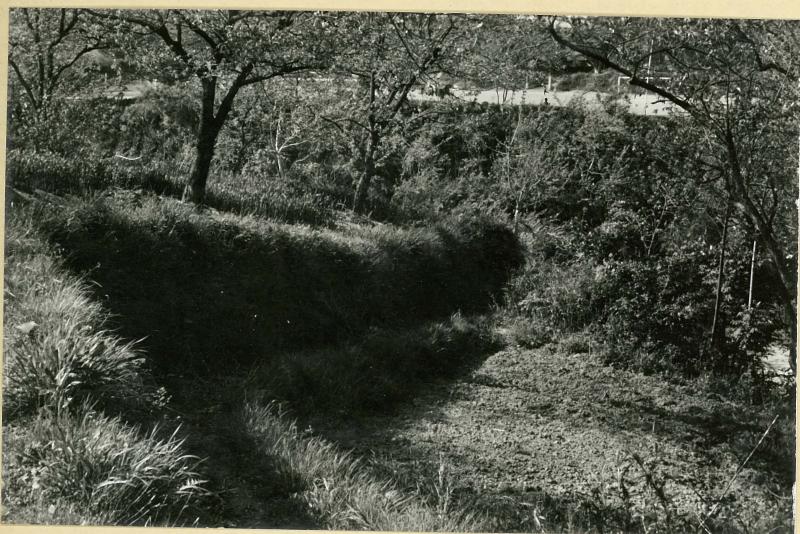


丘の西側  
段の部分



丘の二段目  
西北方から  
登見され  
布目瓦



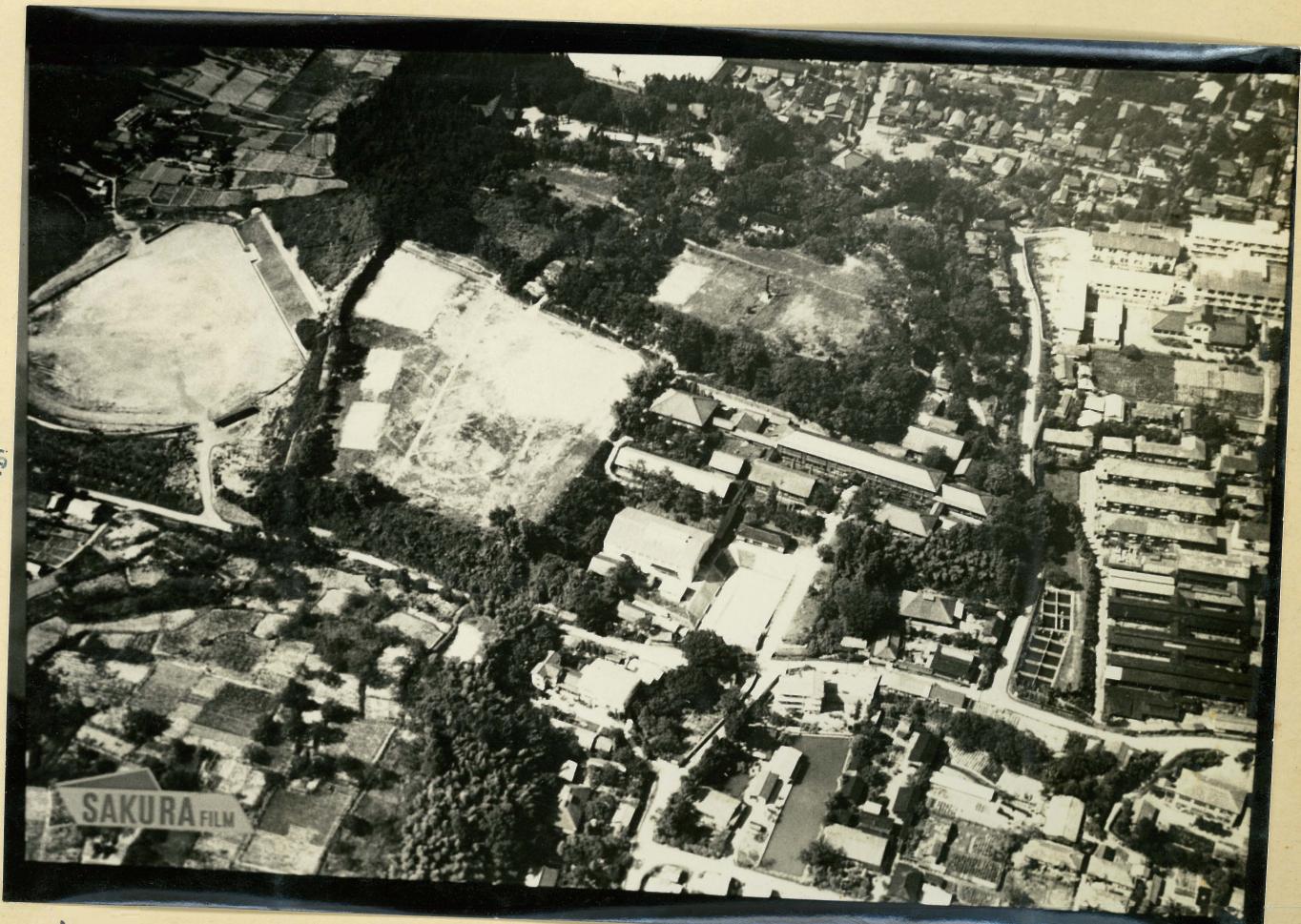


丘の東北方 吉見学園へ下る所。学園は“殿”との  
と称され井戸あり 城主居館 加藤家と  
伝えている。良し飲料水には17勝水である。

#### 火田城 西曲輪

木にかこよひの所本丸

△白石市役野球場  
三井の丸  
↑  
↓ 宮城  
旧白石城址北東部



新旧兩白石城址 航空写真 (サクラフィルム撮影、白石高校蔵)

# 益岡城址 から四方を望む

慶長五年 関ヶ原合戦  
の前哨戦で徳川家  
康軍配によつて行めり  
伊達政宗が白石城  
を攻落した。

伊達勢の陣地が  
これら丘に構築さ  
れた。

巨高は  
“城へ廻る山の壇近”  
1.53.

益岡白石城は  
天正十九年 藤生氏綱  
築城、同姓源左エ内  
御城(四万石)と封じ。  
慶長三年 上杉景勝  
領となり甘粕備後守在  
城、全3年詰城、

慶長五年七月二十日  
伊達政宗領、  
石川大和守在城、

慶七年十二月晦日

片倉三十郎邦頼  
(初一万三千石  
後一万八千石)

明治元年 奥羽に位  
藩白石に会し白石  
同盟を結ぶ

明治元年 南部美濃守  
(十四万石)領となり  
入城、

明治二年  
按察府

明治二年  
白石村 由田勝五郎

明治四年  
東北総合令免、

明治七年 民間化松下  
解体

明治三十三年より益岡公園



中岐  
陣場山  
【伊達政宗御陣場】  
本丸割り 8町 35間  
本丸地形に 4間依り

大橋  
大橋端  
本丸割り 7町 10間



八幡坂西に面窓  
【高野駿馬陣場】

山崎下  
鉢盛山  
1本丸割り 27町半  
本丸地形に 4町高  
申屋敷山  
(岸沢旧往来道)  
【白石若狭陣場】



手代山(寿山)  
1. 本丸割り 9町 46間  
本丸割り 4町半 12丈  
(伊達安房陣場)

銚子盛  
【石川竜江陣場】  
後大畠前 12丈 3尺

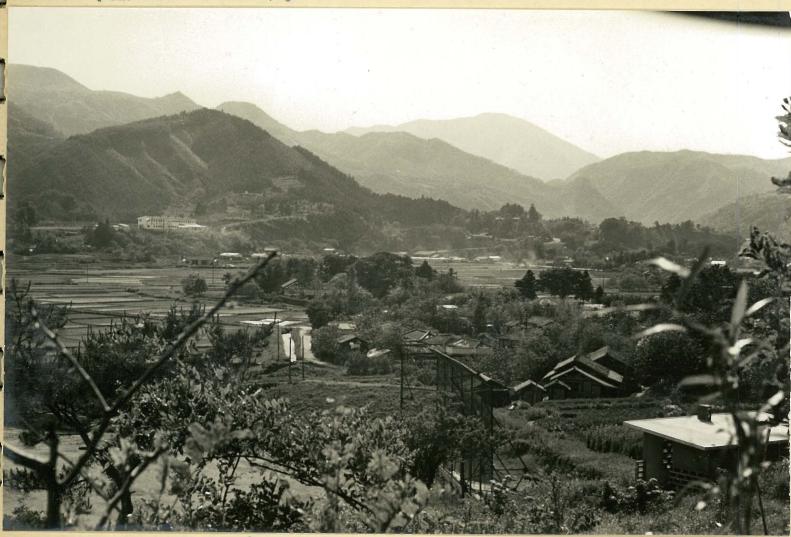
个  
齋川橋  
本丸割り 11町 40間



住吉崎(岩崎山)  
1本丸地形に 24町30間  
三河原地形に 27向半高し  
〔能原〕 大畠前 [伊達安藝陣場]  
〔巨理源五郎〕 [石川壱三江]



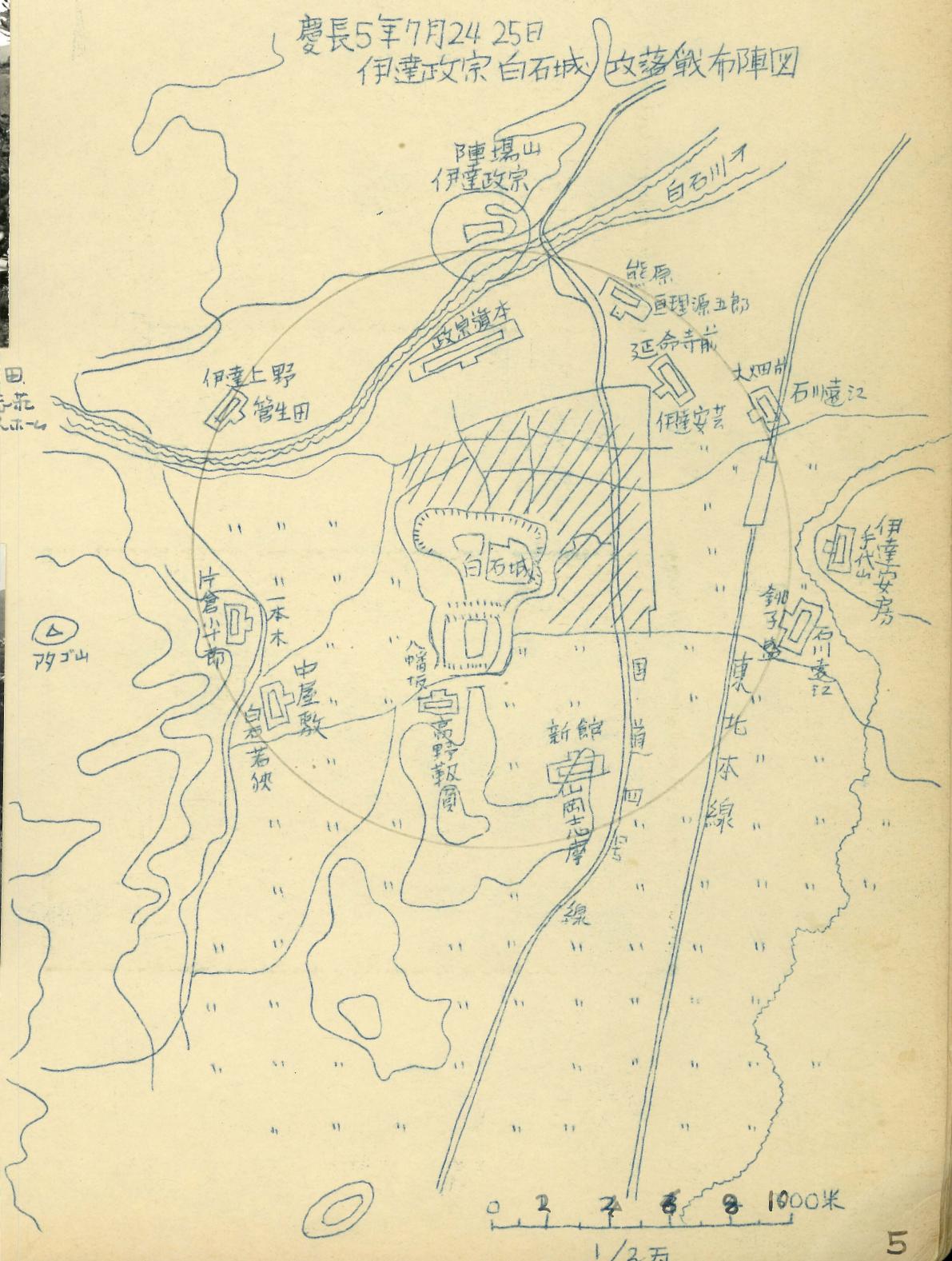
昌山城 大畠山



磐宮山 滑觀音  
一本木 本丸跡 13町 20間  
本丸地形に 64向半高し  
〔片倉小十郎陣場〕



新館 (母子窓)  
1本丸跡 6町 40間  
本丸地形に 8向半高し  
〔山岡志摩陣場〕



四方より 白石益岡城  
を望む



北方[陣場山 伊達政宗本陣より]



東方[手代山-春山-伊達安房陣場より]

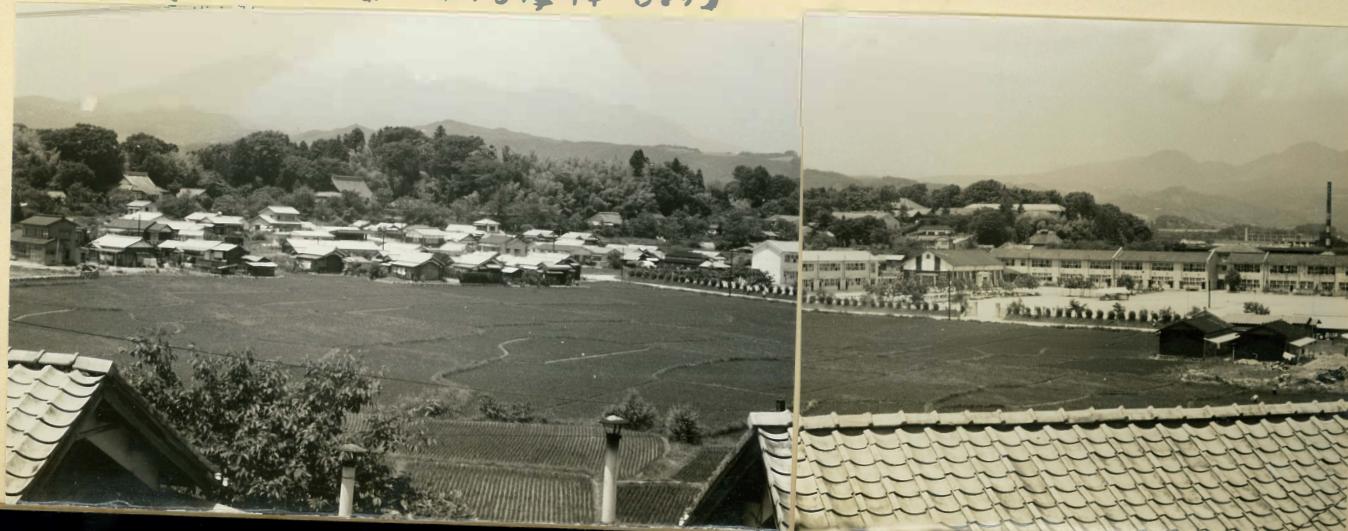
～旧白石城～ ～益岡城～



西方(一本木 片倉小十郎四所町より)  
南方(新館-母子寄 山岡志摩陣場より)



西曲輪 中ノ丸 三ノ丸 宮城  
～ ～ ～ ～





旧白石城跡　運物の前面一本木

起請文 →  
落城の際 箕城兵の生命を  
保護する交換文書。  
伊達軍 石川大和・片倉小十郎  
以下、血判三段乙  
箕城軍 上杉家臣 登坂式部  
南右馬允 両名宛。  
慶長5年 7月25日

一本木  
(片倉小十郎陣場)

○慶長5年 7月24・25日 白石城攻落戦 両軍布陣氏名

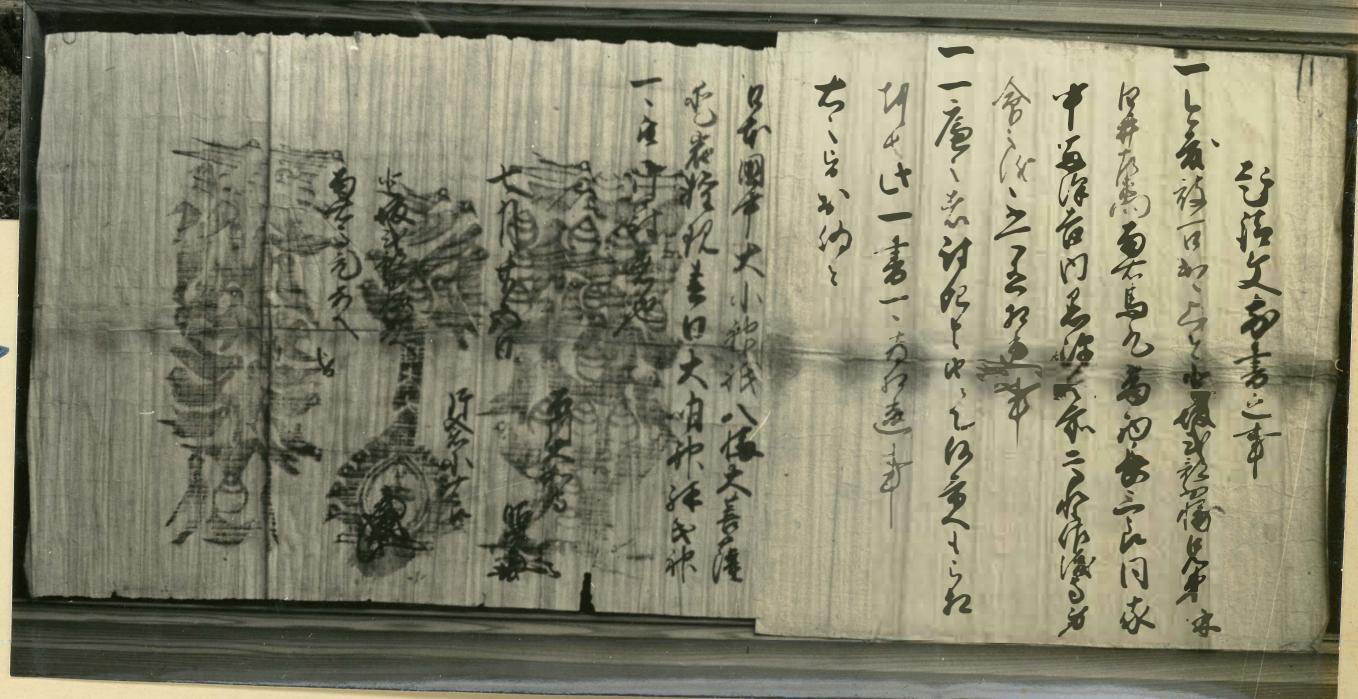
箕城軍

上杉景勝  
白石城主  
留主將  
甘糟備後  
登坂式部少輔  
登坂讚岐  
登坂新左二門  
大崎三次  
葛西長三郎  
葛西尾七郎兵衛  
石川越前  
鹿子田右二門  
南右馬允  
白井左衛門  
富沢吉内  
黒沢豊佐  
高野佐渡

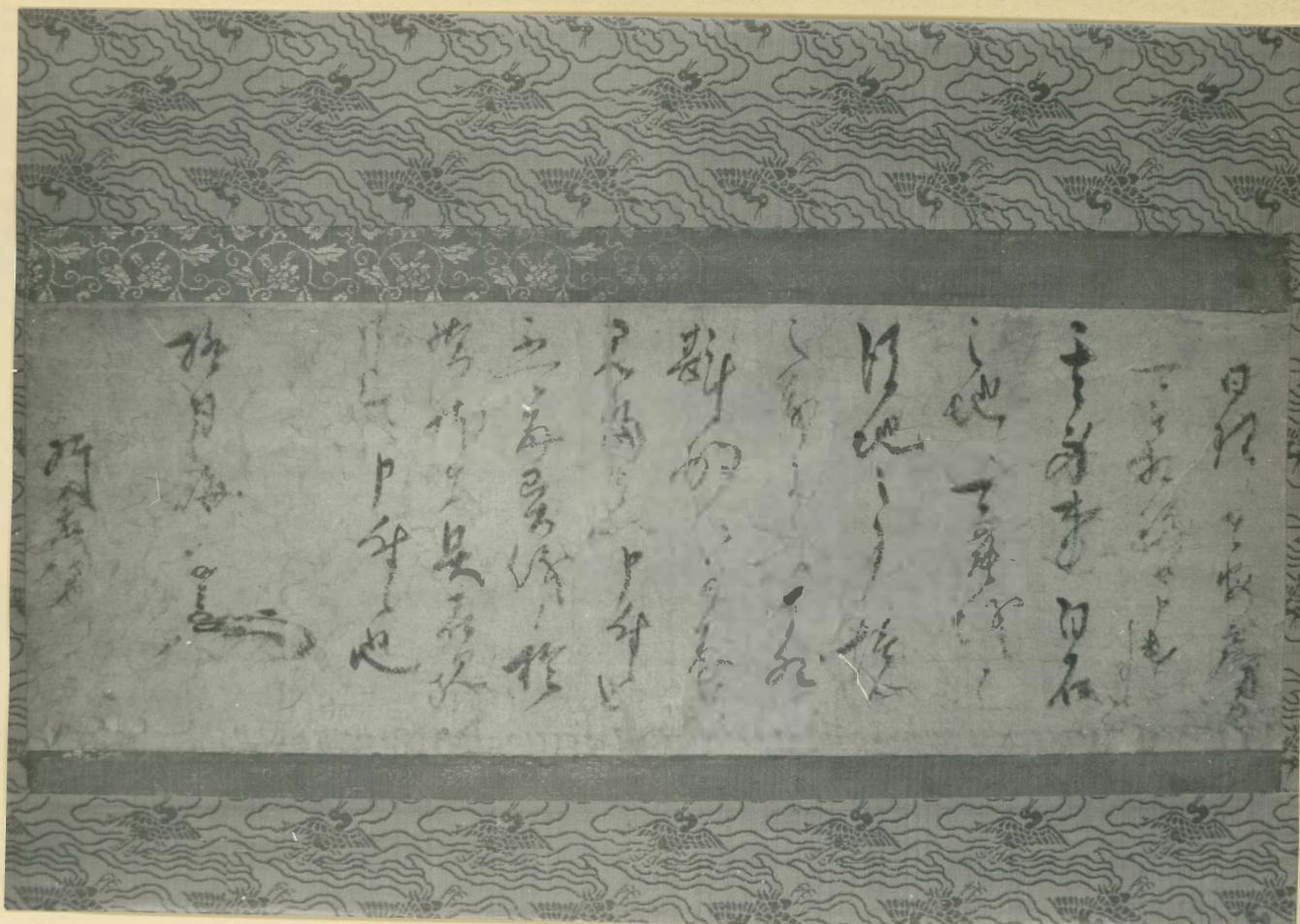
攻城軍

伊達政宗 陣場山  
種本馬回り勢 新原新町裏  
先手屋代勘解由兵衛  
豆理右近  
伊達上野良  
片倉小十郎  
白石若槻  
高山野志安  
伊達安芸  
伊達理源  
石川遠江  
管生田一本木  
中屋敷八幡坂西  
新館手代山(春山)  
延命寺前熊原  
糸子盛後一大畠前

萬西家臣



慶長7年12月晦日付  
伊達政宗より片倉小十郎  
宛書狀  
亘理城の小十郎と白石  
城へ移封の文言



推定正得、毎間作型  
白石城並城下絵図

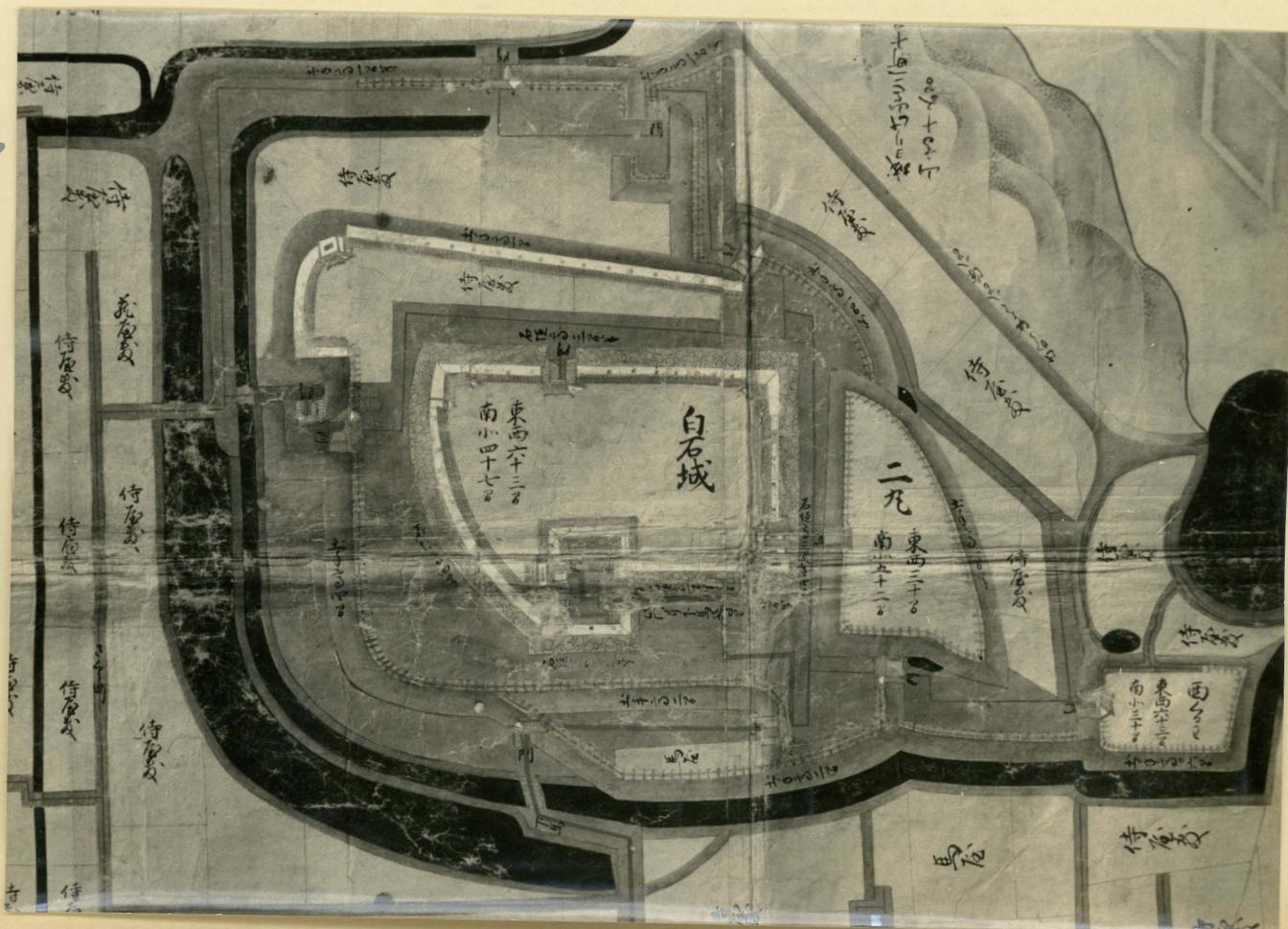




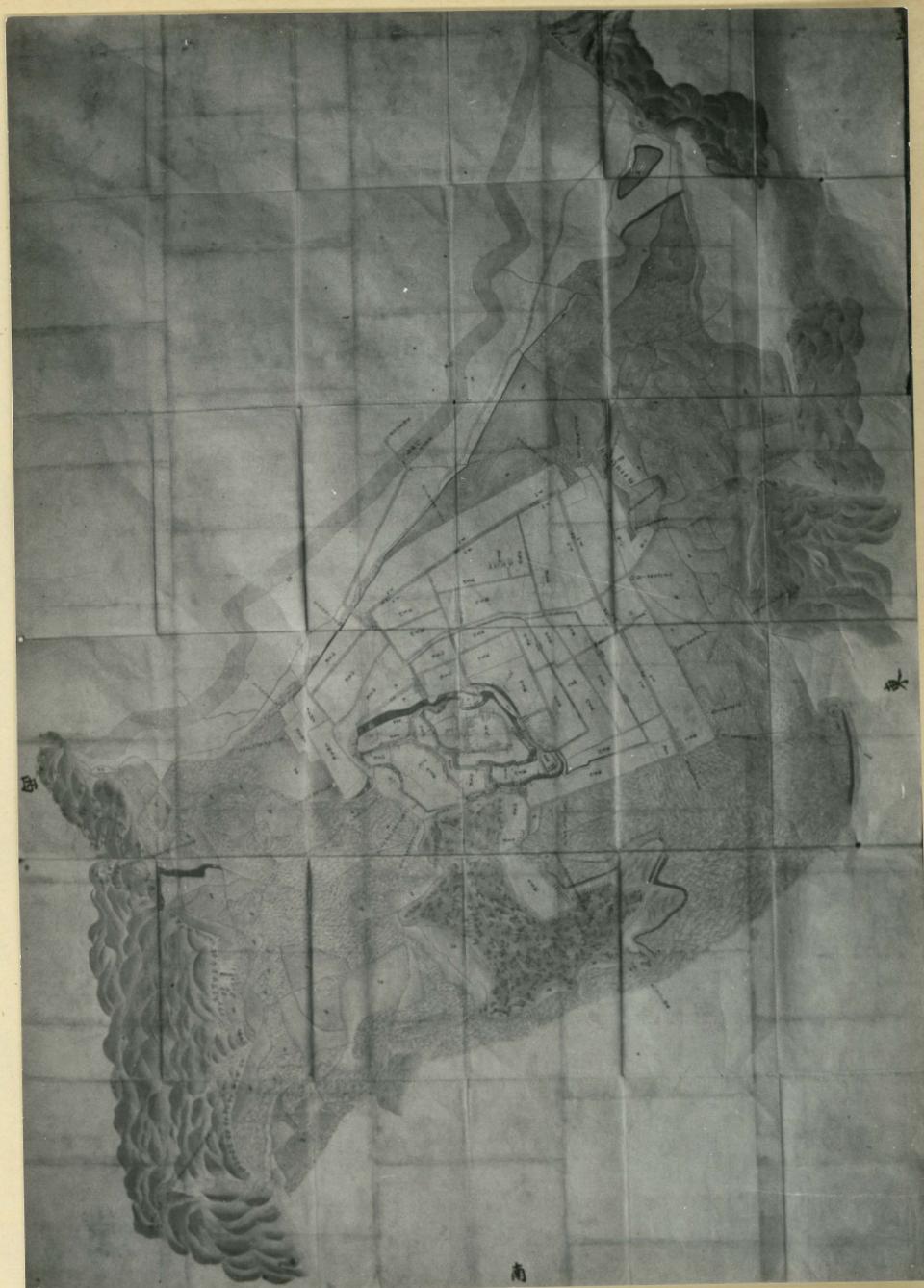
白石城屏風

城の東方  
城の北方  
城の西曲輪  
櫓塔  
本丸内 三門塔  
二丸  
大手門  
石門  
太鼓堂  
五櫓屋兵喰合

生右  
城郭  
部分 →



天和三年実測  
白石城並城下絵図



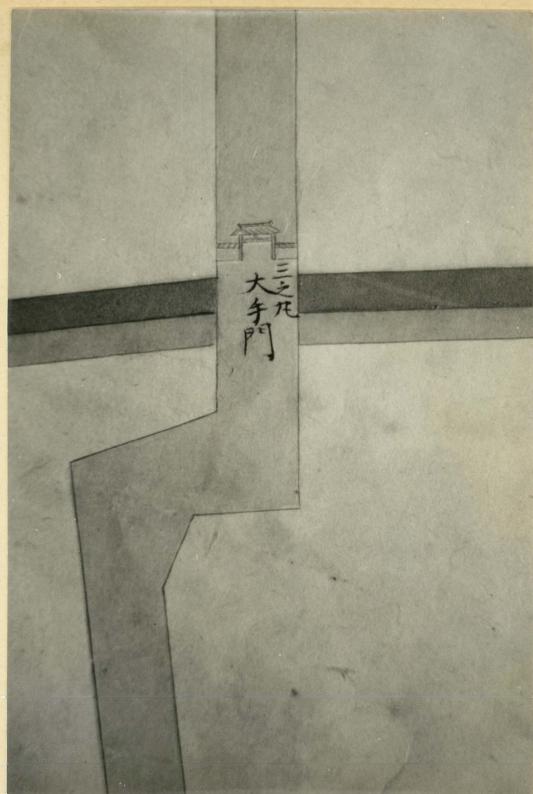
全上 城郭部分



以下 使用の城郭部分図は  
全上実測による普請窓図  
の部分図である。  
現在(昭和38~40年)の  
状況写真と対比してから  
示した。

# 白石城 遺構

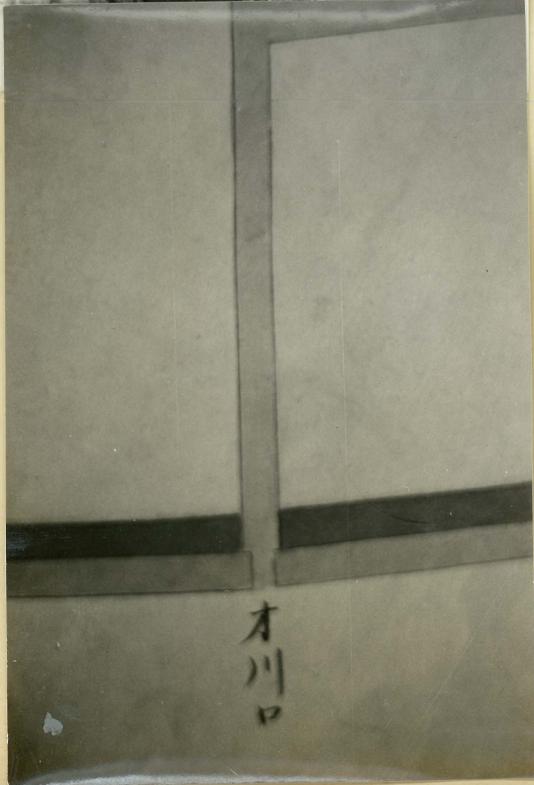
外曲輪  
そとくろわ



外曲輪 大手先 病院前通  
大手口町屋と侍小路の境



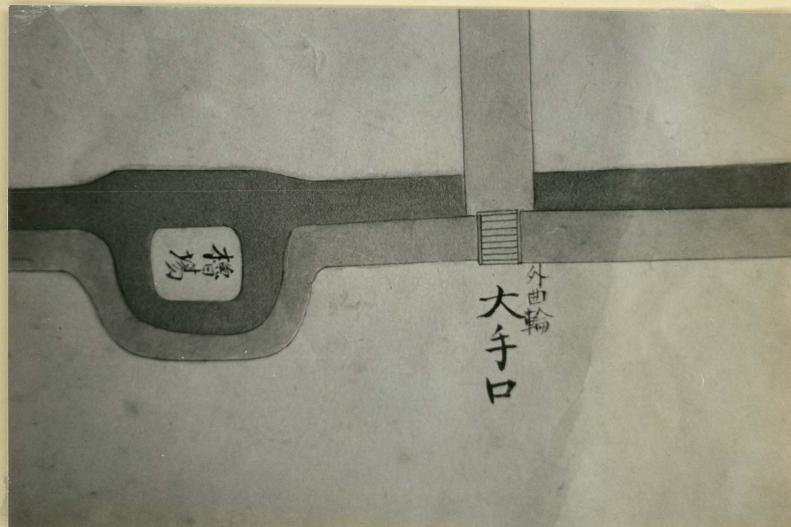
國道四号線  
現在



中四角石鈴不苟藏久蛇中央に張る土手と堀

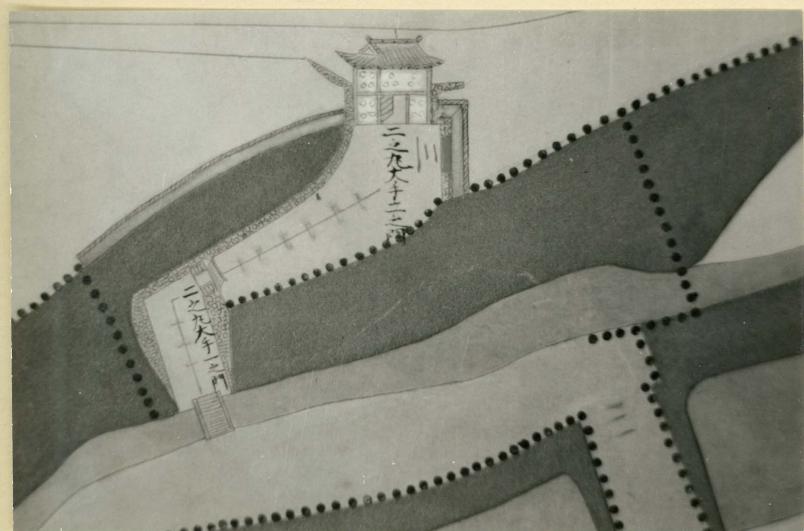


東  
路  
土  
手  
堀  
本  
町  
四  
屋





本丸  
三ノ丸  
流堀  
太手先



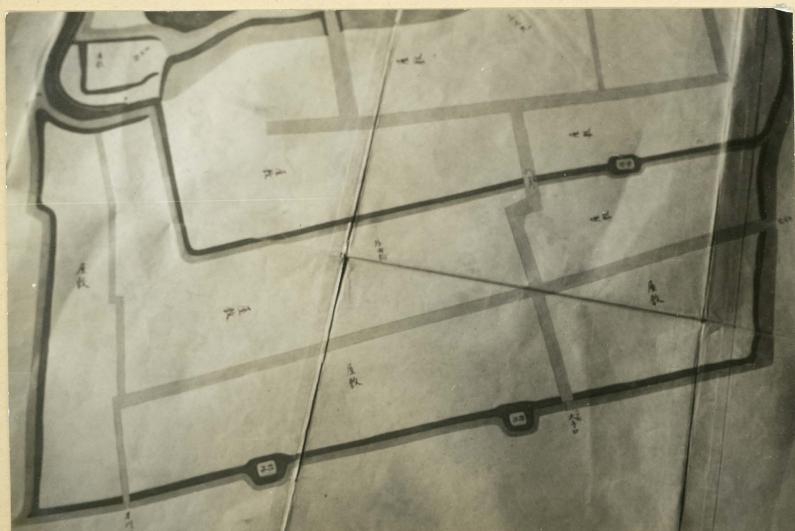
右高東入口昔は  
圓の邊入つて、



城山下を進る流し堀(館堀川)  
石垣の凸出部大手口板橋の橋脚



外曲輪北即山口 池端川  
電気公社わき



外曲輪



本丸上より二ノ丸大手門址及び土蔵人倉址  
三ノ丸方面玉山まで白石古役所(片倉智勝  
社室)

道の所  
二ノ丸大手門址





本丸石垣・現石底部  
一部残存してゐる



東北隅“千人溜”及檜場



残存する石垣



石垣下底部を退り下がる  
且頭下部が露口にして  
古り野づら積み





卷之三



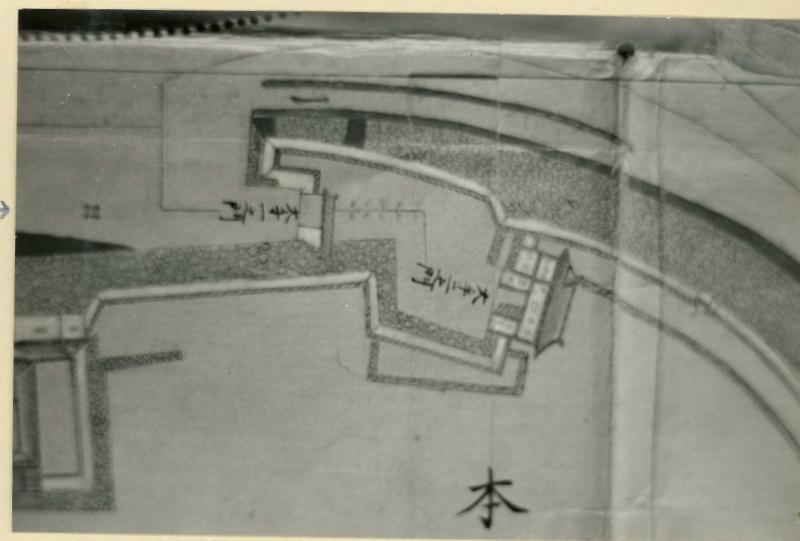
2013年3月2日



卷之三



卷之三



本



(**한국**의 **한글**과 **한국**의 **한글**) **한국**의 **한글**



科能大手的  
一舉勝負

李丸大手門其他 碓石六個残存



李丸大手門跡



二ノ丸より 李丸大手門へ入る

環形荷物の土台に使用された石

右垣下へ堀がある

## 本丸内

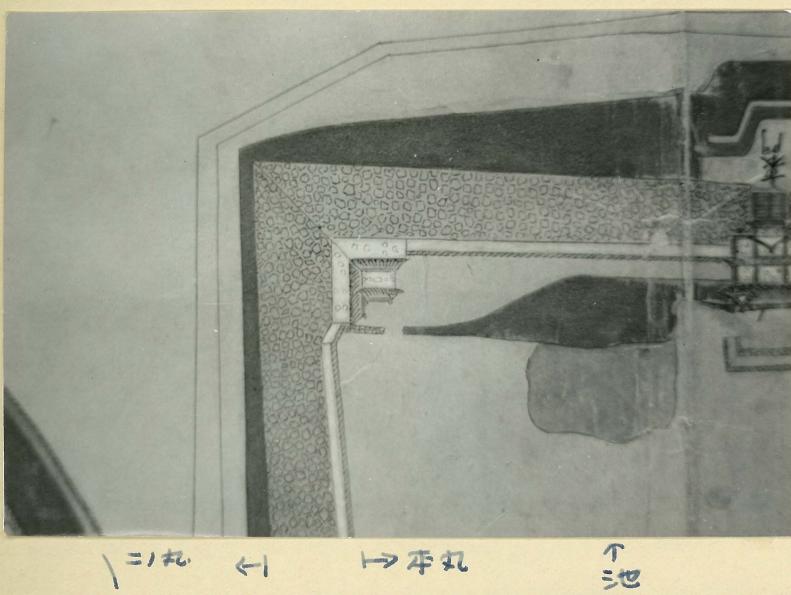
南側 石垣上  
昔口白壁土壁がある。



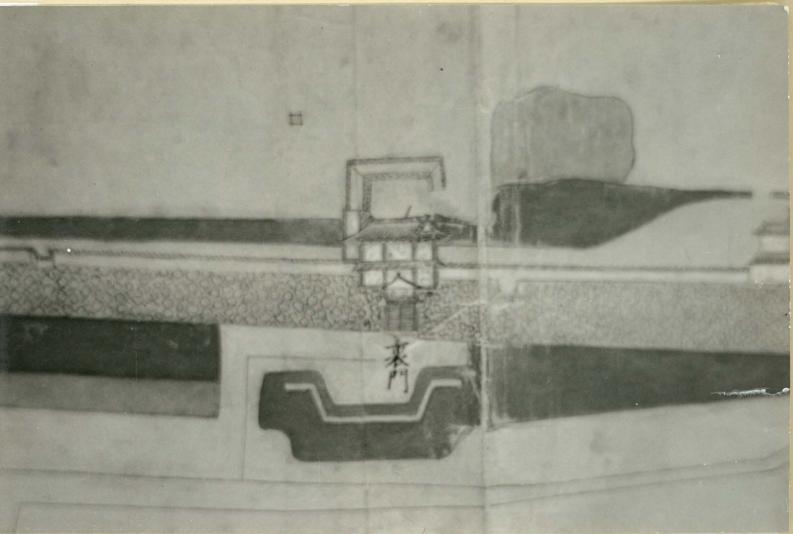
南側 本丸裏門(三階門)  
のあつら場所



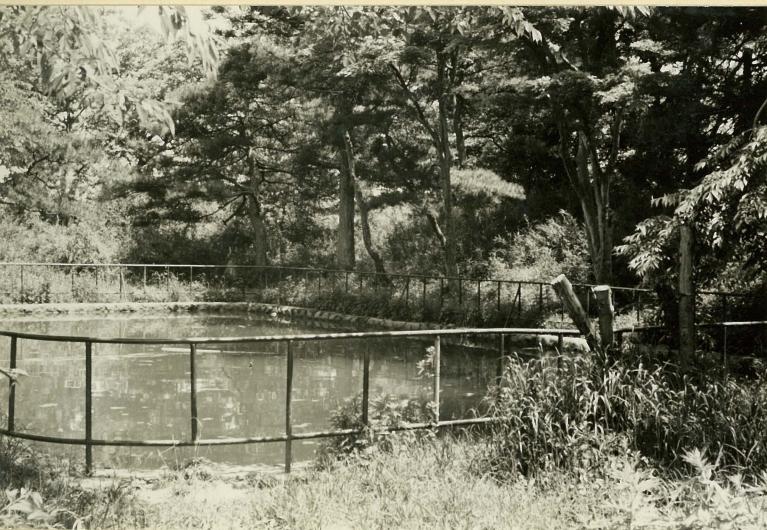
改共櫓  
梅下現白石高段々台の部分は  
元の基定所址



裏門並前方には馬出しといふ土手



改共櫓地へある測量三南點  
標高七六・〇三米  
北緯三七度五十九分五十五秒五七  
東經一四〇度三七分一大秒九七  
(一标高三〇米故北緯三八度五七  
標の位置北  
一三二年八月  
の線上を立)



改共櫻地へある測量三南點  
標高七六・〇三米  
北緯三七度五十九分五十五秒五七  
東經一四〇度三七分一大秒九七  
(一标高三〇米故北緯三八度五七  
標の位置北  
一三二年八月  
の線上を立)



本丸南一西方向

巽櫓 池



裏門



坤櫓



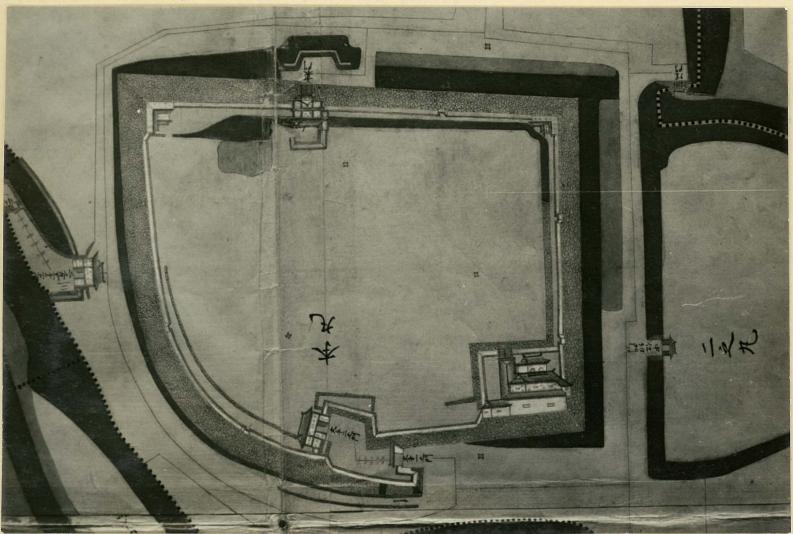
南側西方石垣上部  
右垣下へ堤のあら



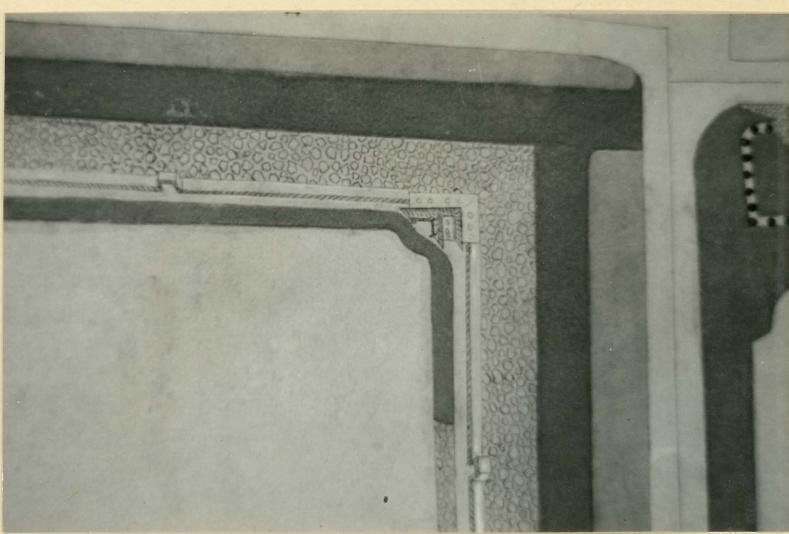
南側西角坤櫓 磚石の一部



本丸全形



塙一  
坤櫓  
石垣等  
口等



三階櫓  
本丸印成御殿址



坤櫓の址



三階櫓



大字二門址

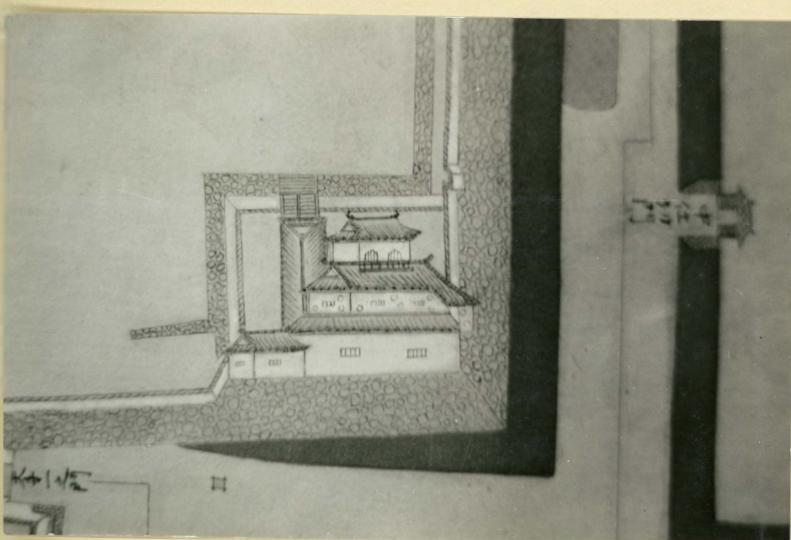


東北側石垣  
17

井ノ室(三階)元日記の南へあつた。  
本丸三階橋下に現存する。



†



二階橋 石垣土台高  
五丈四尺八寸  
下、重東西九間、高六间、中、重七间、四向共上、重五间、三间



三階橋工事、石垣高五間三尺五寸  
本丸西北角



伊達家時代 三引兩 九曜星

18



唐長崎 天正頃

二一九



ニノ丸中仕切門址

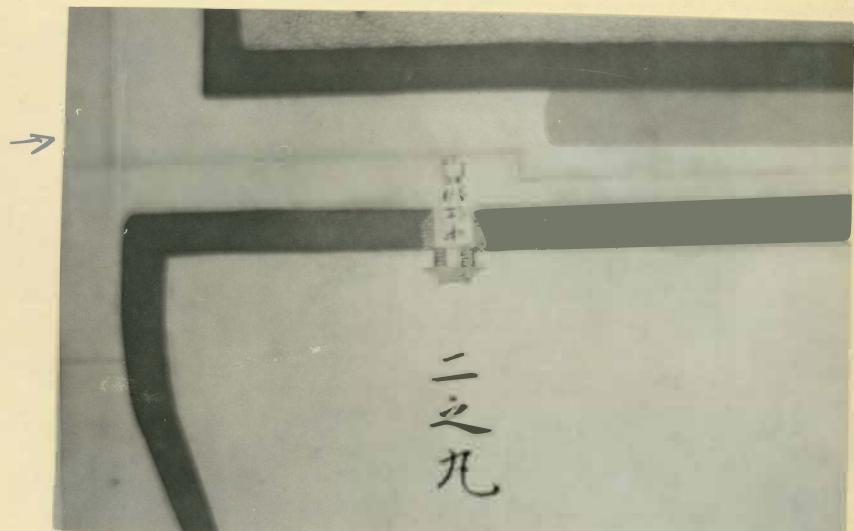
↑  
道は本丸とニノ丸中間の凹地  
馬場をみて



本丸西側お堀上より 凹地をみる

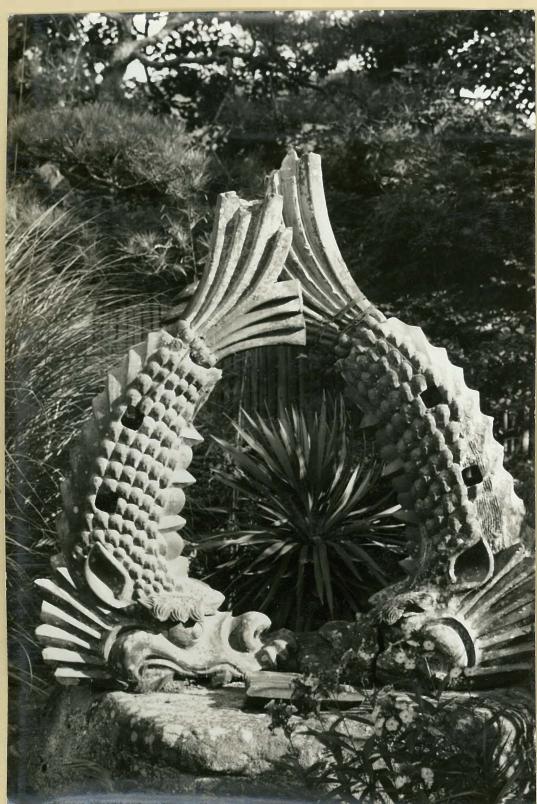


白高ガララント入口門



二之丸

本丸内に保存して しゃち瓦



(燕亭茶池民徳所蔵)

二ノ丸裏門のしゃち瓦



(小原温泉 いすみ屋蔵)  
かつらやには 大手門のかみつ  
火炎で焼失

白石城屋根瓦之留釘木

屋根瓦の設置用留釘

ア

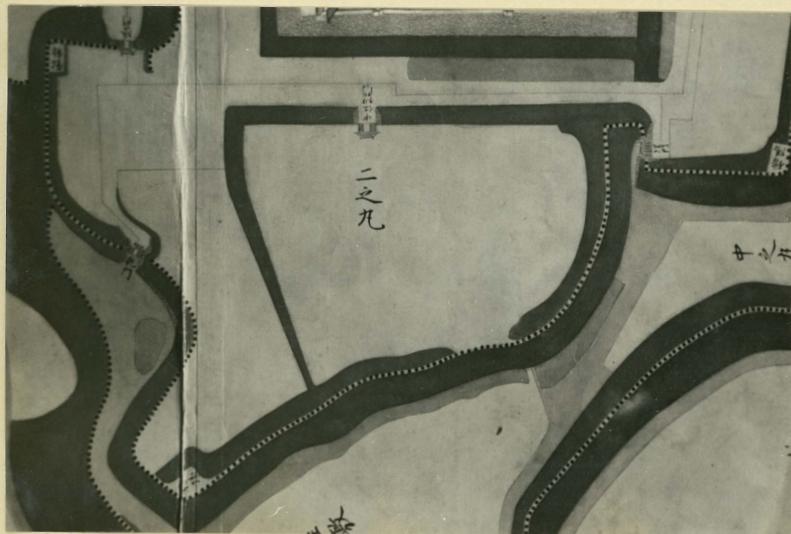




ニノ丸 力屋屋址 西からみる

現児童遊園地

二ノ丸



本丸三階櫓と二丸をみる



中ノ丸



中ノ丸

土手はニノ丸土手で上がニノ丸  
土手下に堀がある

中ノ丸→





横細碑裏

この角下に 埋門か  
あつて



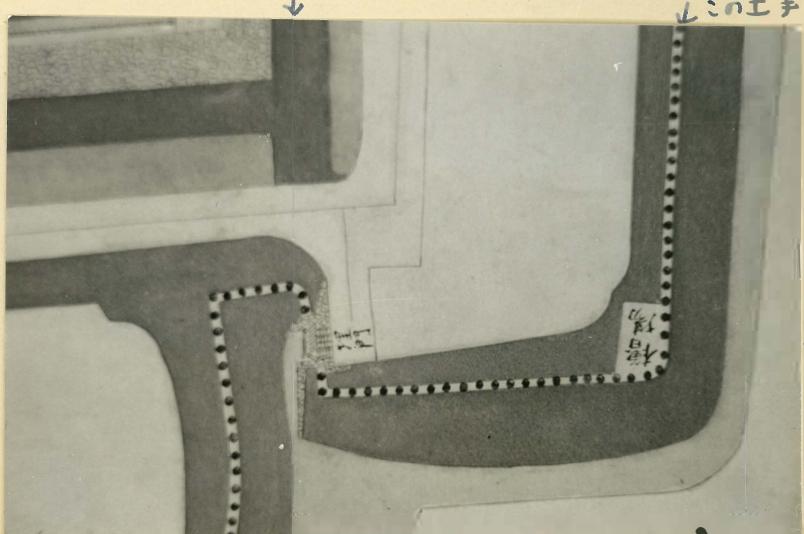
↑ 埋門址

中/丸南方面

↑この土手は  
カラニド  
整地の跡消滅し  
た



↑ 埋門址



(↑上図写真は↑印の方より撮る)

西曲輪

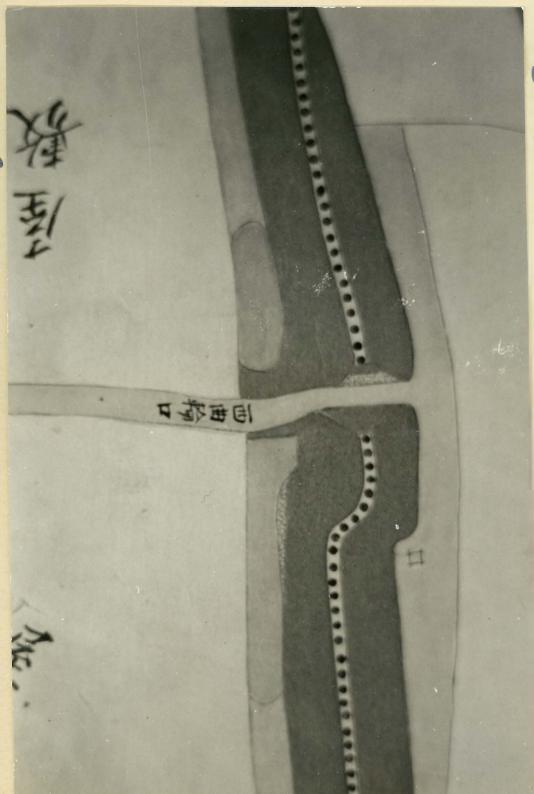


手前の一部  
常盤山別荘(片倉利典)



今場所 西曲輪口

昭一九



西曲輪

西曲輪八幡社  
貞享二年京都石清水八幡宮  
勅詔(へつせう) 東向社殿(とうこうしゃでん)

上西曲輪  
岩崎 古くは石臼道(いり臼のじよう)  
流(りゆう) 沢(さわ) 三(さん) 九(く) 口(ぐち)





西曲輪 林の中  
八甲田社



老人木一

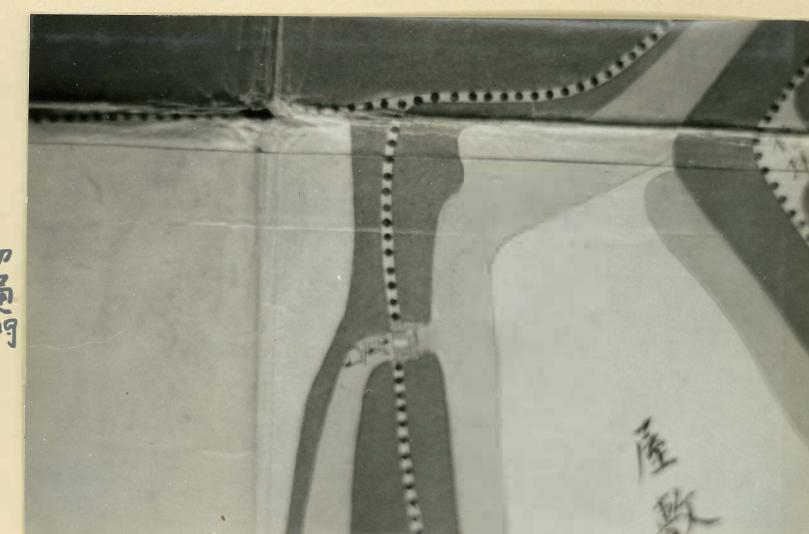
→土手下流江堰 徒歩小路

土手の左側か西曲輪  
右側か中ノ丸  
切通門址



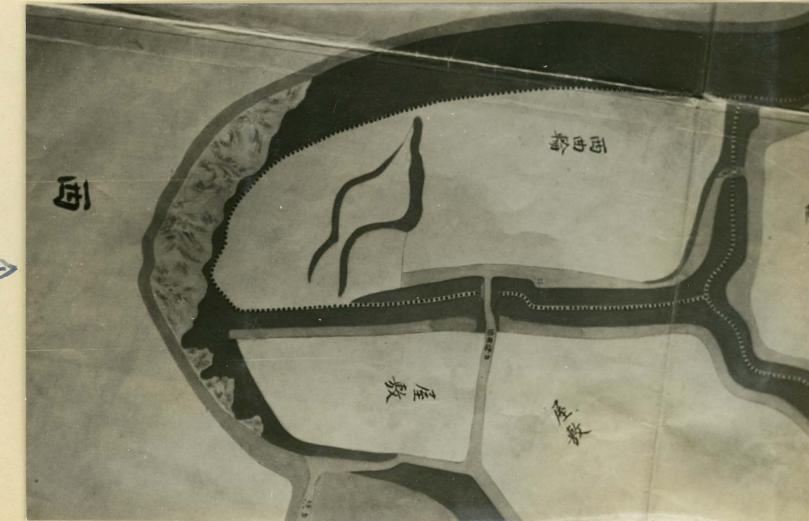
東へ回ると乾門に至る

西曲輪中丸壁、土手、矢印の所切通門



西曲輪 / 土手 門 中丸

西曲輪西側崖下  
流し堀  
又端川合岐点



沼・丸・沼



沼の丸 市営野球場

土平上から  
申八九

土平下に  
空疋到り

野球場  
か沼の丸



山八中音社 西曲輪

三流い坂

(止  
三流の一部)



三沼

空堀（塹）



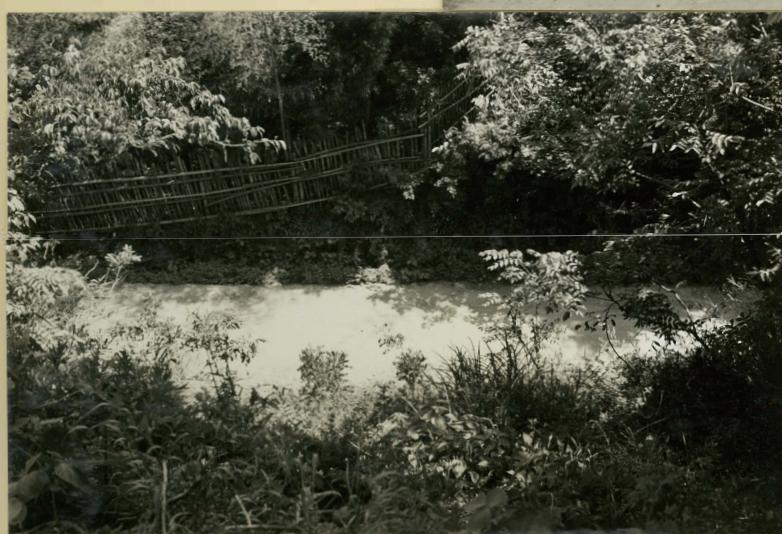
上の土手は中ノ丸の土手



白石城を丘陵から孤立させ  
了ひめへ堀り切つた空堀址  
現在開けた広い道路  
左側が旧白石城の部分  
右側が益岡城の部分  
左側が益岡城の部分



吉見寺周辺の空堀址



中丸  
沼ノ丸



沼↑  
八幡山  
旧白石城址



→ 土手上有り部分は旧白石城

沼の南側

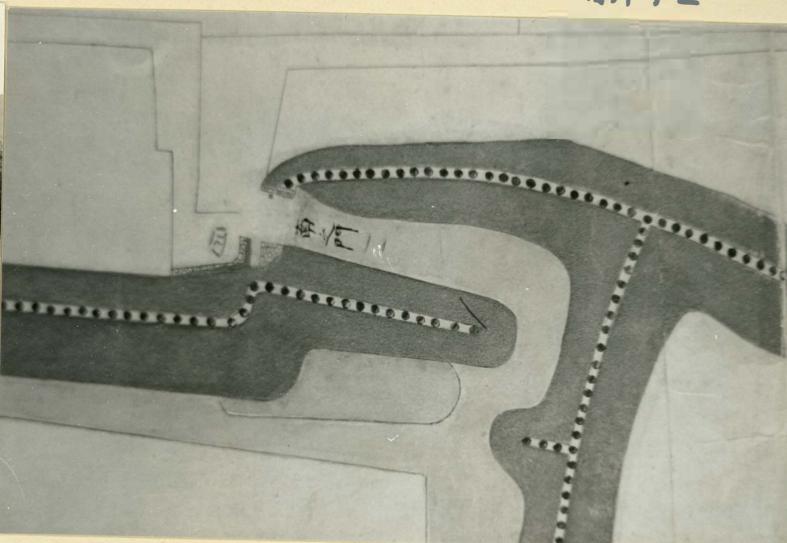
二大東南角櫓跡  
南丸 摂屋(ふつも水東) 南ノ丸

中ノ丸

大木立林は平丸  
佐り左の面日ニ丸  
ニノ丸南方の土手及南門址  
からウニド造成で消失した  
→



↑南門址



南丸 // → 中丸南方

中ノ丸

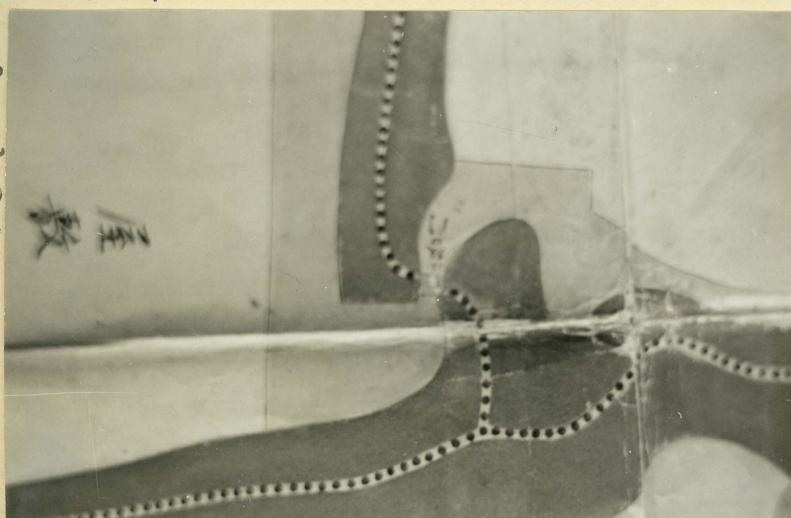
南丸  
土手の南東南か小坂口門址



白高体育馆 南丸西方

土手上中ノ丸

南ノ丸西

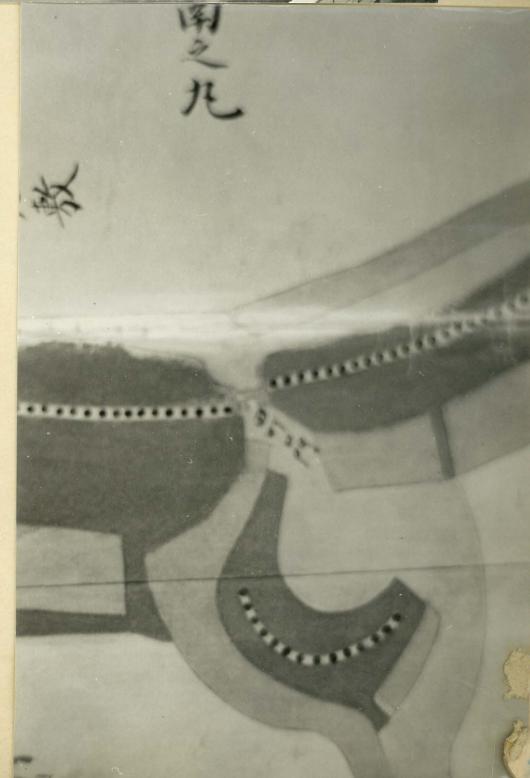


26

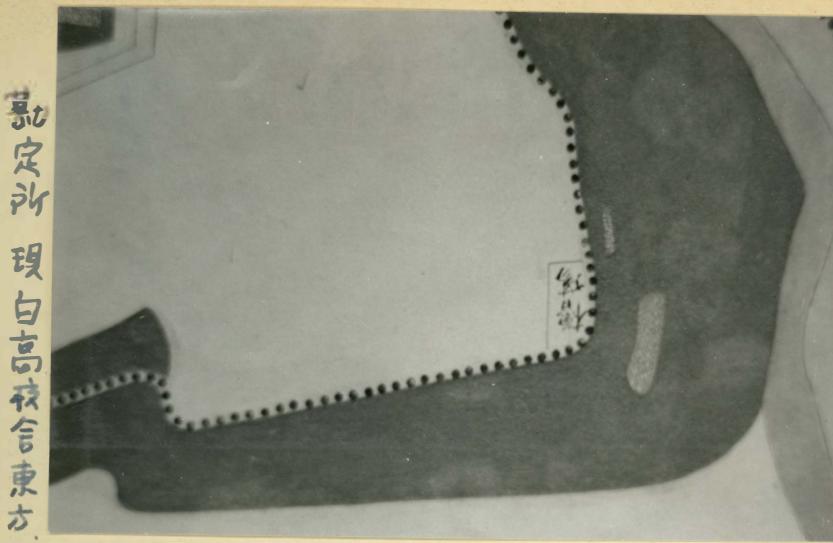


白高校正門か  
田町口門

田町口門



二丸東南角櫓場

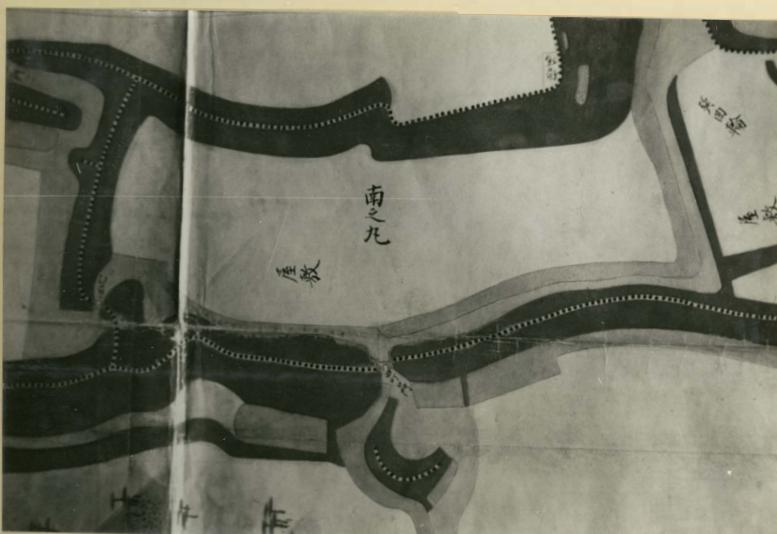


勘定所現白高城(吉見東方)

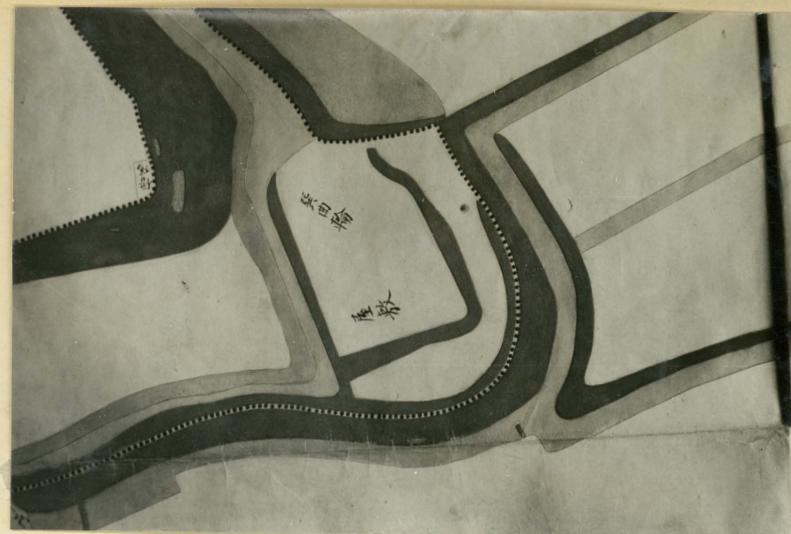
南丸 捣屋(ミツミ)水車



南一丸



羽共曲輪 作事所(現片倉製衣工場貯水池)



水車屋は昔日の建物



排水口





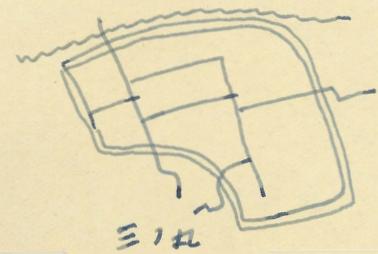
三の丸は白石女子高棟、白石市民  
体育館、公立刈田病院、白石  
市役所、片倉製糸工場のみの  
部分に当る。

入口は北の宮口門、東の大手先  
の二ヶ所。外へ西に馬場へ通じる  
道がある。

家中筋の大身の侍屋敷から成る。  
北部は明治四年屋敷を取扱う  
錦糸場といふのが現地名である。

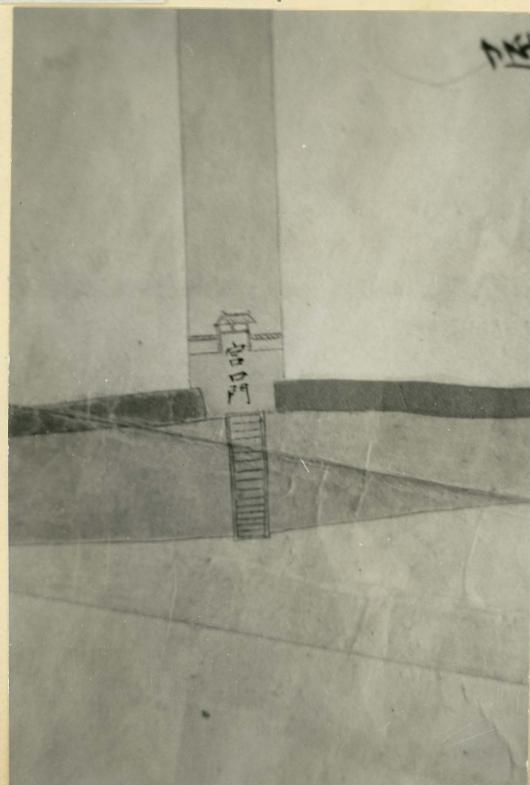


三の丸 大手先の道 白石市役所  
(本丸81237)



→女子高棟

左侧 会社 宮口本丸家  
女子高は友藤家  
通は宮口門が廻口門への道



宮口門

三の丸川(外堀にあたる流し坂)橋と渡りと宮口門



廐口門  
うきぐちもん

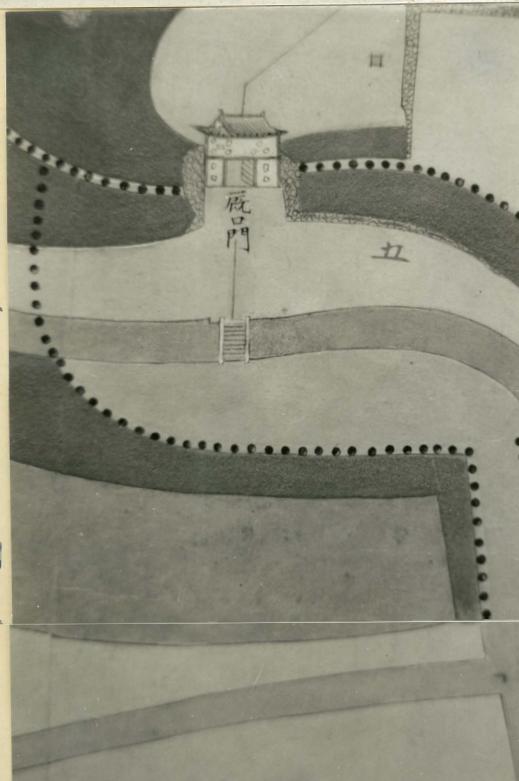


流し場

土手

堀  
中小門

細小路



廐口門前広場

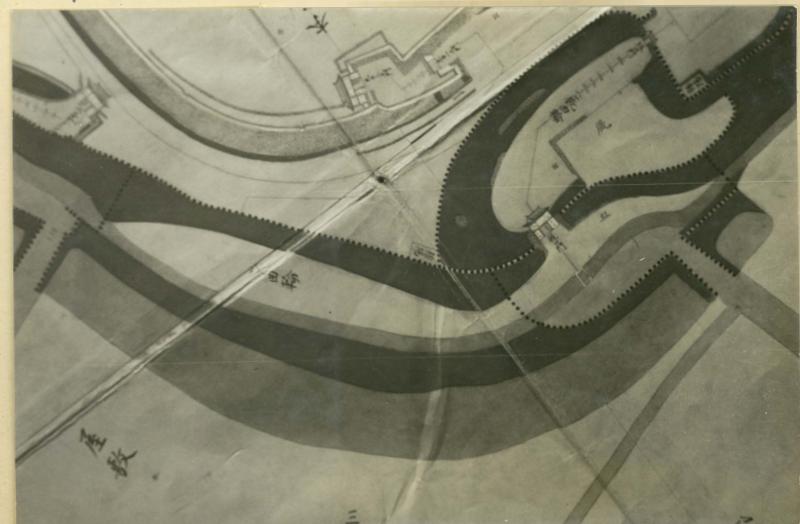


廐口門 現在 近命寺の門

帶曲輪

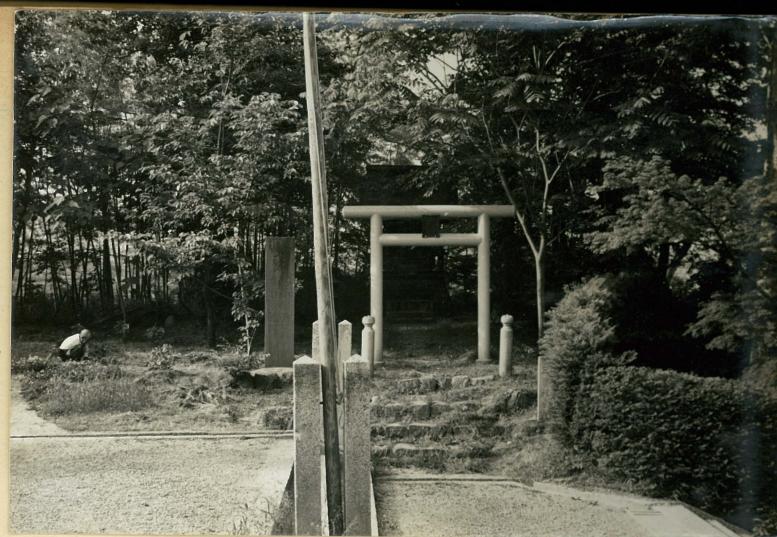


↔

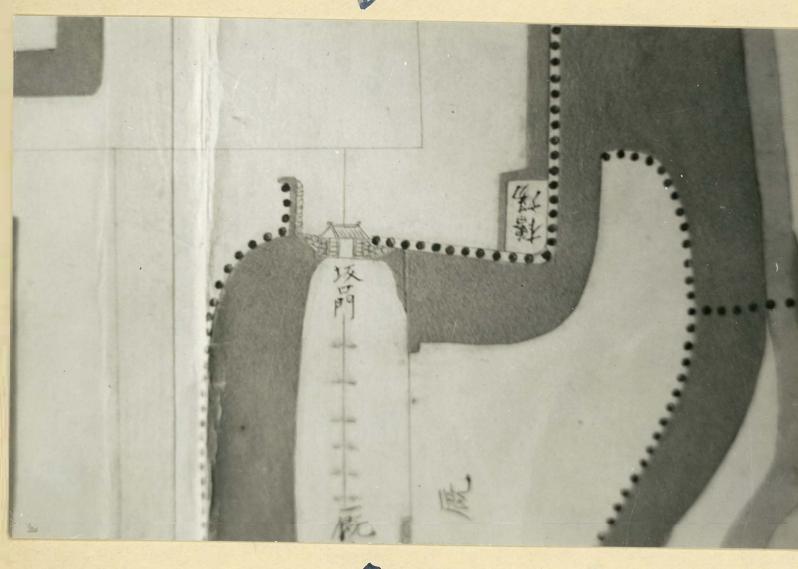


# 坂口門

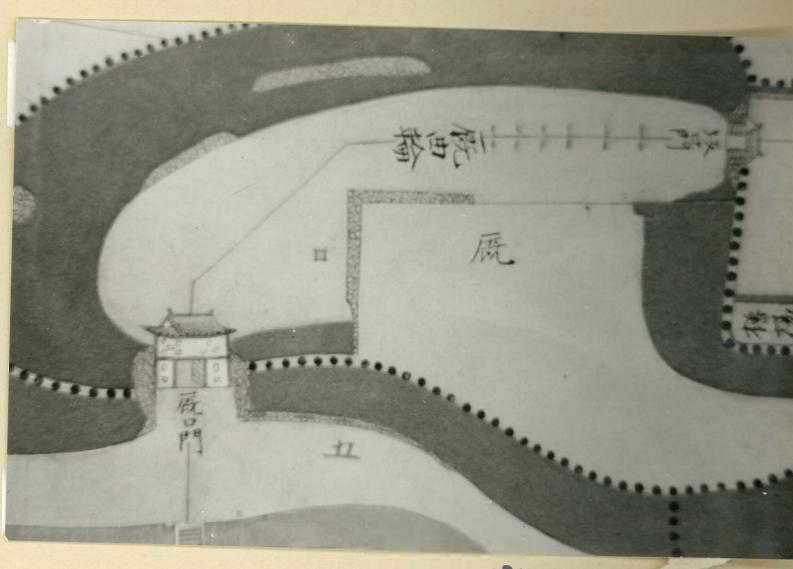
坂口門址



坂口門



厩曲輪



厩曲輪



石段上に坂口門



厩の址



山内やきの所 東北角櫓場



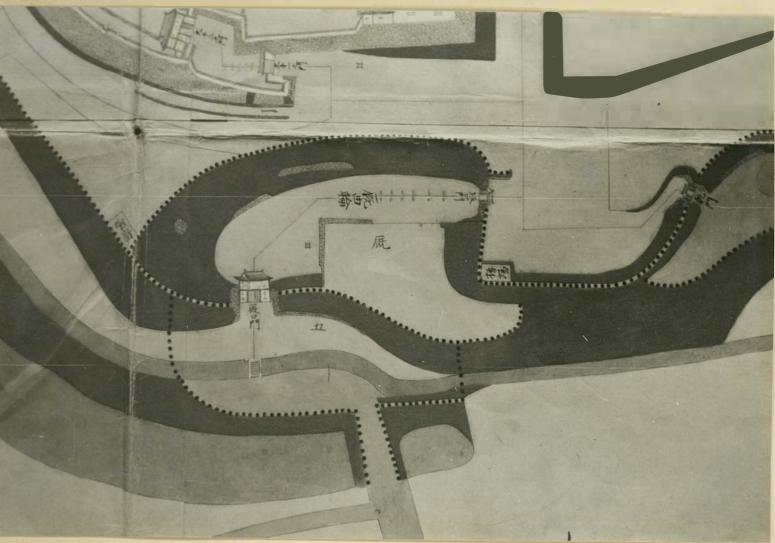
二ノ丸西北角櫓場→建物後の土段

乾門

櫓場と乾門外から見む



神明社の跡所附近



坂口門西の広場より倉庫二棟ある

杉林の中に櫓場  
乾門を下つて道



山やきの所 東北角櫓場

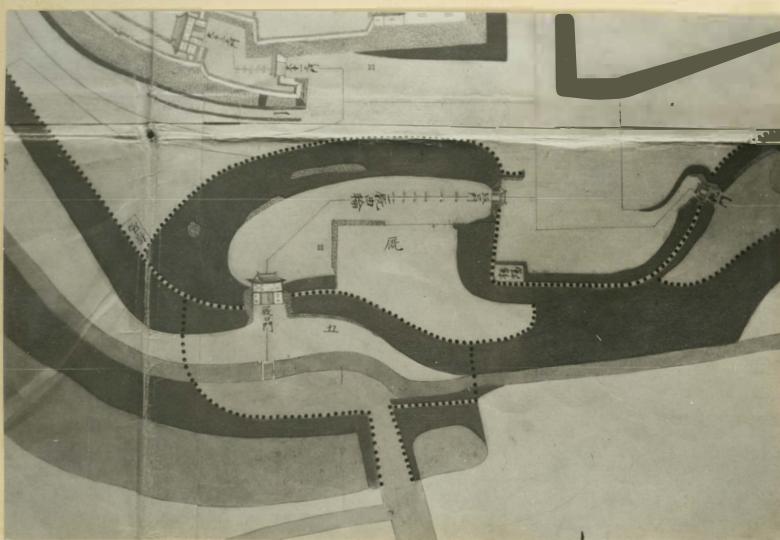


北へ下る道は古い大手口であつたらしい

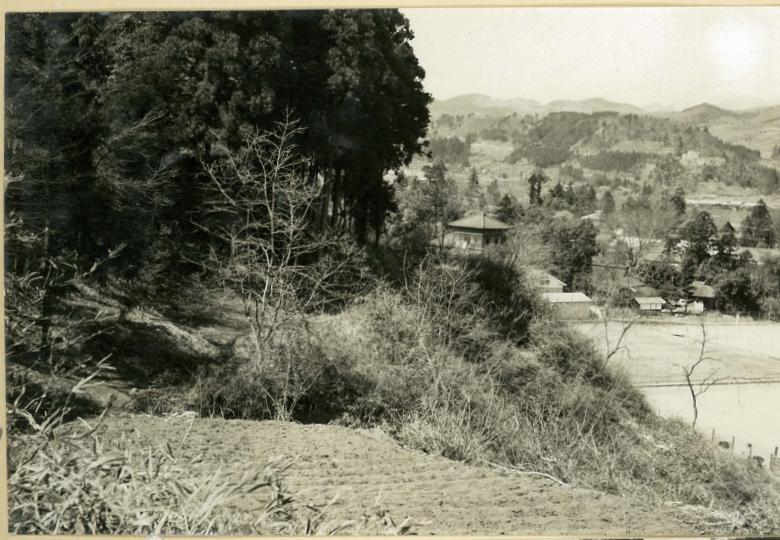
坂口門西の広場 兵庫倉二棟ある



神明社の跡所附近



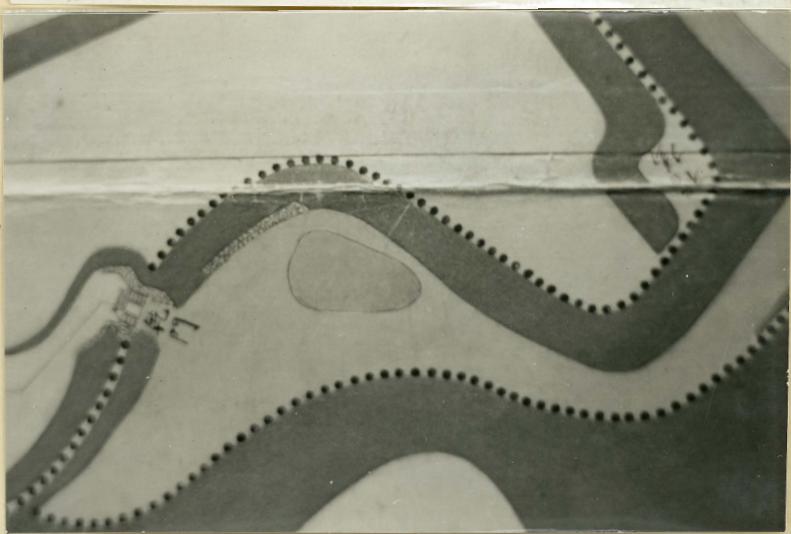
杉林の中に櫓場  
乾門を下る道



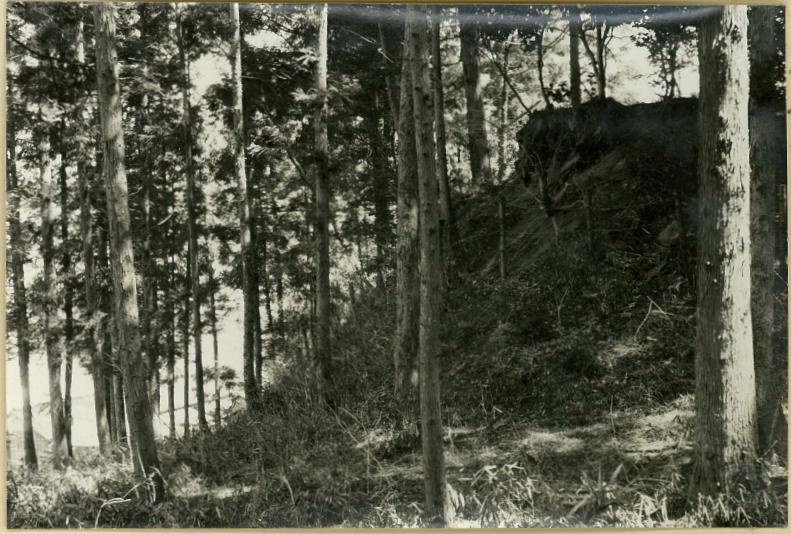
二ノ丸西北角櫓場→建物後土段



乾門



櫓場より乾門外から見む

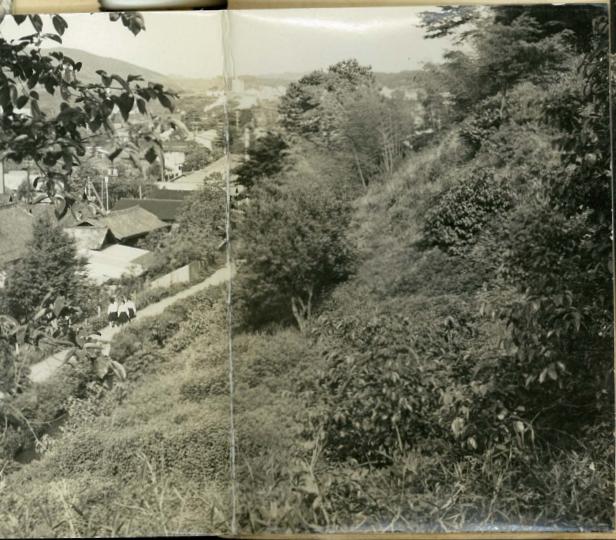


櫓場



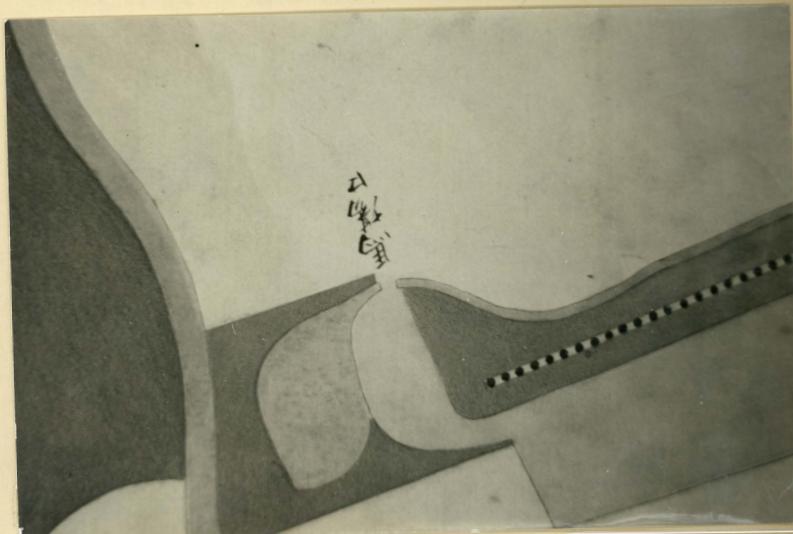
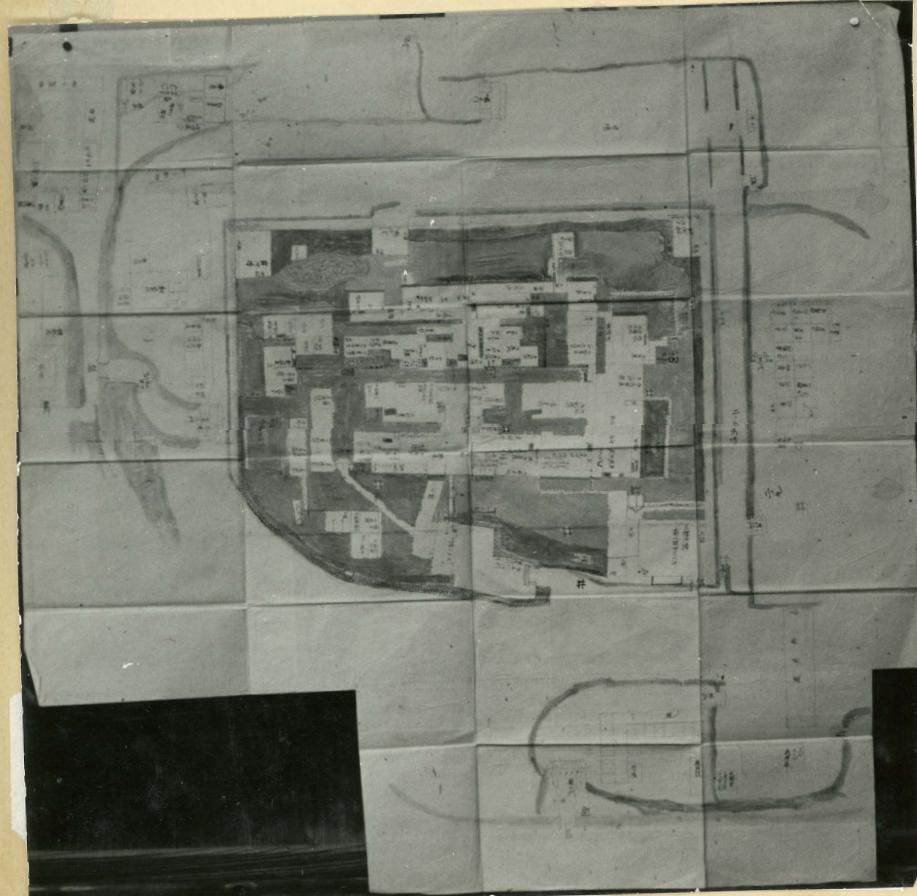
乾門址

西子山は櫓場下と通り  
中ノ丸、切通門と通じ  
西曲輪に至る前



北へ下る道は古川大手口であつたらしい

流し堀（館堀川）



三十九

十一月外五、六、七、八

1965.10.5. 第2冊



ア-34